

大阪産(もん)で心身に健康を

万博でPR

大阪府は6月12日、JAGグループ大阪などの協力を受けて、大阪産を知る・楽しむ・味わう機会を提供するPRイベント「大阪産(もん)を食べて元気になろう!」大阪産(もん)のおいしい

食べ方・楽しみ方」を2025・大阪・関西万博(大阪ヘルスケアパビリオン)リボンステージ及び広場で開催。大阪農業の魅力、歴史、食文化、大阪産(もん)農産物の栄養価を紹介し、心身の健

康につながる企画を実施した。会場では4つのブースが、加工品の試食や販売、野菜の摂取量を推定する機器「ベジチェック」の無料体験、大阪の花を使った花束やリースの販売などが行われた。

そのほかステージイベントも実施し、桜の生け込み実演、大阪産(もん)の花きで演者のヘアアレンジを行うフラワーパ

フォーマンス、全問正解者には漬物詰め合わせセットが贈られる漬物クイズ大会など、多彩なプログラムが来場者を楽しませた。

今回は8月4日に、同会場の一部内容を変更して実施予定。(林佑)



開花調整技術を施した桜の生け込み

「相続」というと「お金持ちの話」と思われがちですが、実は違います。家庭裁判所で相続トラブルになった事例の約8割が、遺産総額5000万円以下です。つまり、一般のご家庭でも、十分に起こり得る話なのです。特に注意が必要なのは、自宅や農地といった分けにくい財産が多く、預貯金が少ないご家庭。

相続策には守るべき順番があるからです。たとえば、相続人は長男と長女の2人、相続財産は合計1億円(自宅・農地が500万円、預貯金が5000万円)のケース。親は長男に農業

確かに、税金の面では有利になります。しかし、実際に相続が発生して、長男が自宅・農地5000万円を、長女が預貯金3000万円を相続した場合、長女の取り分は法定相続分より1

業を継がせたいという親の意向とはまったく違う結果になってしまい、経営基盤が崩れるリスクすらあります。親が長男に農業を継がせたいのであれば、安易な生前贈与は避けるべきなのです。

分を無視してしまうと、相続人から法的に取り分を請求されることがあり、もめる原因になります。また、相続税は「相続を知った日の翌日から10カ月以内」に納めなければならず、納税資金の準備も大きな課題です。

農地と家族を守るために

― 農業者が考えるべき「相続」の話 ―



榊原 喜久

株式会社アセット 代表取締役
ファイナンシャルプランナー

「誰がどの財産を受け継ぐか」で、家族の不満やトラブルにつながりやすくなります。

を継いでほしいと考えていると

000万円少なくなります。長

相続対策と聞くと、多くの方がまず「節税」を考えます。しかし実は、それが大きな落とし穴になることがあります。相

しませよ。このようなケースで、「節税になるから」との理由で、生前に長男・長女へそれぞれ1000万円ずつ贈与したとします。

女が納得せずに差額の支払いを求めても、長男に現金の余裕がなければ、自宅や農地を売却しなければならぬ可能性も出てきます。こうなると、長男に農

継がせたいのか」「農業を誰に引き継いでほしいのか」を明確にすることが出発点です。

次に、その意向通りに財産を分けた場合に、「相続人間で不公平感が生じないか」、「法律で保障された遺留分(最低限の取り分)を侵害していないか」、「相続税を納めるための現金を用意できるか」を丁寧に検討する必要があります。特に、遺留

相続対策で一番大切なことは、まず被相続人(親など財産を残す人)の意向を確認することです。つまり、「誰にどの財産を継がせたいのか」「農業を誰に引き継いでほしいのか」を明確にすることが出発点です。

随 想

愛知県出身、東京都在住。大学卒業後、22年間農業団体職員として農地相談や新規就農相談などの業務に従事。現在は農業者のライフプランの相談・提案、農業者年金・農地制度・不動産登記・保険・相続等の講演・執筆を行う。

〈筆者の紹介(さかきばら よしひさ)〉